

南砺市立福光美術館

城端蒔絵450年記念展 開幕

治五右衛門 News Letter Vol.19



南砺市立福光美術館にて「城端蒔絵450年 小原治五右衛門と城端のあゆみ」展が開幕いたしました。開催にあたり、多大なるご支援ご協力を賜りました皆さまに、心より御礼申し上げます。温かいご祝辞やお祝いを賜り、そして初日から多くの方にご来場いただきましたことにも、深く感謝申し上げます。今年は、七代 小原治五右衛門が文化二年(1805)9月13日に逝去してから220年の節目にあたり、奇しくもその祥月命日に開会式を迎えることができました。先祖も見守ってくれていたような、温かく不思議な喜びを感じております。展覧会の準備期間中は、父と先祖の作品を一点一点手に取りながら、親子で歴代の手仕事を感じながら、城端の昔話をしつつ、城端とともに治五右衛門があゆんできた歴史を語り合う時間を持つことができました。そして開会式では、普段は「挨拶は任せる」と言う父が、この日ばかりは自ら登壇し、城端蒔絵450年への誇りと喜びを話しておりました。テープカットの後には「これからはお前とコウちゃん(孫)に任せる」と言い、ご来場の皆さまと楽しそうに語らいながら、私のギャラリートークを聞いていました。これも世代を超えて受け継がれる城端蒔絵の大切な1ページであることを感じました。展覧会は10月26日(日)まで開催しております。ぜひご高覧いただけましたら幸いです。

十六代 小原治五右衛門

『城端蒔絵450年 小原治五右衛門と城端のあゆみ』

会 期：2025年9月13日(土) - 10月26日(日)

会 場：南砺市立福光美術館 1F企画展示室富山県南砺市法林寺2010

時 間：9:00 - 17:00 (入館は16:30まで)

休館日：火曜日休館

観覧料：一般 1,000円 / 高校・大学生 210円中学生以下無料 ※常設展観覧料金が免除されます

主 催：南砺市、南砺市立福光美術館共 催：北日本新聞社、北日本放送

後 援：(公社)日本工芸会、(公社)日本工芸会富山支部、富山新聞社、北陸中日新聞、読売新聞北陸支社
富山テレビ放送、チューリップテレビ、となみ衛星通信テレビ、テレビ金沢、MRO北陸放送
富山エフエム放送、エフエムとなみ

城端蒔絵450年記念対談 「城端蒔絵と曳山祭 - 治五右衛門がつなぐ技と心 -」 2025.9.21

林 曉 (重要無形文化財「髹漆」保持者) × 十六代 小原治五右衛門 (城端蒔絵)



このたび、城端蒔絵450年を記念して、林曉先生をお迎えし「城端蒔絵と曳山祭 - 治五右衛門がつなぐ技と心 -」と題した記念対談を開催いたしました。おかげさまで席を増設するほどの盛況となり、林曉先生、ご参加くださいました皆さまに心より御礼申し上げます。

林曉先生には、漆の魅力や国宝の数々、ご自身の作品を通して、漆藝の奥深さと可能性をわかりやすくご紹介いただきました。また城端蒔絵の歴代作品にも触れてくださり、初期の「桐鳳凰密陀絵盆」(東京藝術大学蔵)、九代作の「彩漆鯰模様手付盃盆」、八代作の「鶏に花籠蒔絵硯箱」、七代作の「桔梗形乾漆吸物碗」などを高くご評価いただいたことは、大きな励みとなりました。

私からは、城端蒔絵のはじまりや特色、代々の取り組み、そして今回の展覧会の見どころについてお話ししました。450年にわたり受け継がれる中で、幾度もの困難を乗り越えてきた祖先のあゆみと、私自身が挑む新たな取り組みについてもご紹介いたしました。

さらに、林曉先生が監修、私が修理技術者として携わっている曳山・庵屋台等の修復についても触れ、城端曳山祭の魅力や城端文化の熱気をお伝えしました。ご来場の皆さまに少しでもその雰囲気を感じていただけたなら幸いです。

最後に、林曉先生とこれからの日本工芸について、互いに思いをお話ししました。日本工芸の藝術的価値の向上や、美しさを求める思い、継承の大切さについても教えていただきました。ありがとうございました。

十六代 小原治五右衛門



重要無形文化財「髹漆」保持者
林 曉 / HAYASHI Satoru

1954年、東京都渋谷区生まれ。78年、東京藝大美術学部工芸科卒。80年、同大学院美術研究科修士課程修了。82年、日本伝統工芸展初入選。87年、日本工芸会正会員。92年、東京藝大非常勤講師。95年、高岡短大(現富大芸術文化学部)産業工芸学科助教授。96年、日本伝統工芸展 日本工芸会長賞。2003年、同短大教授。09年、同展文部科学大臣賞。20年、富大芸術文化学部附属技藝院(文化財保存・新造形技術研究センター)センター長。23年、同大名誉教授。10年、紫綬褒章。現在、同大客員教授、金沢美大客員教授、日本工芸会富山支部幹事長、石川県立輪島漆芸技術研修所講師を務める。



城端蒔絵
十六代 小原 治五右衛門 /
OHARA Jigemon XVI

1979年、富山県南砺市城端生まれ。2000年 石川県立輪島漆芸技術研修所蒔絵科卒業。安土桃山時代・天正三年(1575)から一子相伝で継承する「城端蒔絵」の十六代目。代々「小原治五右衛門」の名を襲名し、国内外での展覧会活動や、「城端曳山祭」で巡行する曳山・庵屋台などの文化財保存修復にも従事。また、TEDxをはじめ国内外での講演やプレゼンテーションに登壇する。03年、日本伝統工芸展初入選。06年、日本工芸会正会員。19年、「十六代 小原治五右衛門」を襲名。24年、日本伝統工芸富山展 富山県知事賞、日本伝統工芸日本工芸会新人賞。25年、日本伝統工芸富山展 日本工芸会賞。

第72回 日本伝統工芸展 開幕 2025.9.3

『第72回 日本伝統工芸展』が東京・日本橋三越本店で開幕しました。城端蒔絵蓋物「Prominence」の地方展陳列会場は下記の通りです。ご高覧いただければ幸甚に存じます。

【金沢展】 石川県立美術館 2025年10月31日(金) - 11月9日(日)
 【松江展】 島根県立美術館 2025年12月3日(水) - 24日(水)
 【高松展】 香川県立ミュージアム 2026年1月2日(金) - 8日(日)
 【広島展】 広島県立美術館 2026年2月18日(水) - 3月8日(日)

《終了》

【東京展】 日本橋三越本店 2025年9月3日(水) - 15日(月)
<https://www.nihonkogeikai.or.jp/>



じごえもん 未来プロジェクト 2025.9.28

城端蒔絵450年記念展 - 関連行事

【じごえもん 未来プロジェクト - 蒔絵体験 - 】

9月28日(日)に福光美術館で開催しました蒔絵体験ワークショップは、午前の部・午後の部ともに定員を超え、キャンセル待ちが出るほどおかげさまで大盛況となりました。小学生から一般の方まで幅広い世代の皆さまにご参加いただき、秋を感じる素晴らしい飾皿が数多く誕生しました。ご参加くださった皆さま、ありがとうございました。

城端別院善徳寺「囲炉裏を囲む会」 2025.9.30

石村修子さんにお招きいただき、「囲炉裏を囲む会」でお話ししました。皆さまの城端愛をあらためて感じ、心からうれしく思うと同時に、城端の歴史や文化を総合的に語るには、課題があることを実感しました。とりわけインバウンドを視野に入れるなら、学びが肝要です。城端人が「かつては」ではなく、現代においても「美しさ」を求め続ける姿勢こそが、これからの地域の力になります。今後お客さまをお迎えする際には、皆で一緒にご案内することで、大事なことが見えてきて、より楽しい取り組みになると思います。



Messages from Friends

3年前、初めて小原治五右衛門さん取材するため城端を訪れた際「十六代続く蒔絵師とは、いったいどんな方なのだろう」と思いながら、待ち合わせ場所へ向かいました。

そこに現れたのは、驚くほど爽やかな青年。
その姿が強く印象に残っています。

その日、小原さんは実際に曳山祭で巡行する山車や曳山会館を見せてくださり、城端の歴史や代々の小原治五右衛門について、淀みなく丁寧に、熱心に語ってくれました。

生まれ育った土地への愛情や、先人の仕事への深い敬意が、話の端々から伝わってきたのを今もよく覚えています。

その中でも特に印象に残っているのが、何百年も前の漆塗りを修復しながら、大切に曳山を受け継ぎ、次の世代へと手渡していく姿です。

その「時間の捉え方」は、短い時間で物事が消費される現代を生きる私たちに、大きな示唆を与えてくれるのではないかと思います。

伝統を守りながらも新たな挑戦を続け、自らの作品づくりにも真摯に向き合う小原さん。

その姿には、いつも刺激を受け、心から尊敬しています。

これからも、同じ時代を生きる者として、小原さんの仕事を拝見するのを楽しみにしています。

広川 智基



写真家

広川 智基 / HIROKAWA Tomoki

1979年、東京都生まれ。2001年、日本写真芸術専門学校Ⅱ部卒業。2002年、和光大学芸術学科卒業。ポートレート撮影をはじめ、ファッション、CDジャケット、建築など、幅広い分野で商業ワークを行う一方、自身の作品制作も主にフィルムを用いて精力的に行っている。近年の主な作品に、東北の樹水を青く煌めく美しい画面に捉えた《雪に浮かぶ》、生まれ育った東京を独自の視点で切り取った《TOKYO BORDER》、雨に濡れた公園の木々を、艶やかに輝く生命の美しさとして描写した《密雨》、コロナ禍から着想を得て、何気ない日常を初のスナップ写真で構成した《忘れてもよいこと》などがある。





OHARA Jigoemon XVI

- Johana Makie -

令和7年(2025)

【活動報告】

- 9月3日(水) 第72回 日本伝統工芸展 開幕
- 9月3日(水) 第72回 日本伝統工芸展 出品者研修会
- 9月3日(水) 第72回 日本伝統工芸展 レセプション
- 9月6日(土) 城端蒔絵450年記念展 搬入
- 9月8日(月) 城端蒔絵450年記念展 飾り付け
- 9月13日(土) 城端蒔絵450年記念展 開会式
- 9月14日(日) 城端むぎや祭
- 9月21日(日) 城端蒔絵450年 記念対談
- 9月28日(日) じごえもん未来プロジェクト - 蒔絵体験 -
- 9月30日(火) 城端別院善徳寺「囲炉裏を囲む会」

令和6年度能登半島地震・大雨被害で被災された
皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災地ではまだ不安な日々をお過ごしのことと拝察いたします。
1日も早い安心の暮らしの蘇りに結ばれますよう祈念いたします。

〒939-1865 富山県南砺市城端4316-1

Tel / Fax: 0763-62-1156

E-mail: info@jigoemon.com



<https://www.jigoemon.com>